

*** 東京天文台から国立天文台へ (看板架け替えの写真発見)**

1988年7月1日、東京大学東京天文台は国立天文台へと飛躍した。東京大学東京天文台、緯度観測所、名古屋大学空電研究所の待望電波部門の3者が統合改組転換して大学共同利用機関国立天文台へと衣替えした。

東京天文台の看板が外され、国立天文台の看板が掲げられた。その記念すべき行事の写真を発見した。

筆者が撮影したもので、その行事を見ていたものの一人として撮影したものである。まづ外された東京天文台の看板の写真(写真1)である。



写真1 正門の門柱から外された東京天文台の看板

この東京天文台の看板が掲げられたのが何時か、それは調査していないが、麻布飯倉にあった東京天文台が正式に三鷹に移転したとされているのは1924年9月である。東京の街明かりで空が明るくなり、観測条件が悪化したことと、旧海軍天文台の後に設立された東京天文台の敷地が狭隘であったために、明治末期には三鷹移転が決定され、92,000坪あまりの敷地の購入が行われたが、移転は経費不足で遅々としてなかなか進まなかった。

が1923年9月1日の関東大震災で麻布の東京天文台は壊滅状態になり、それを機に一挙

に三鷹への移転が行われた。

東京天文台は、徳川幕府の天文方を引き継いでおり、幾多の変遷を経て、1878 年東京大学理学部観象台として始まっており、1881 年観象台が气象台と天象台に分かれ、1888 年東京大学理学部天象台と海軍観象台と内務省地理局の 3 者が統合され東京大学東京天文台が海軍観象台のあった麻布飯倉の地に置かれた。アーカイブ室で発掘、収蔵、復元、展示を進めている多くのものは、これら海軍天文台、内務省地理局から移管されたものも多い。

1988 年には、ハワイに大型光学赤外線望遠鏡建設という大型予算の事業を行うため、大学を出て文部省直轄の大学共同利用機関国立天文台となったのである。

1988 年 7 月 1 日、国立天文台発足に伴い、看板の架け替えが行われ、初代台長らの手によって「国立天文台」の看板が掲げられた（写真 2）。



写真 2 掲げられる国立天文台の看板

今年、東京大学観象台発足から 130 年、東京大学東京天文台発足から 120 年、国立天文台発足から 20 年の節目である。この間の、1953 年には東京天文台 75 周年祝賀会が催され、記念誌と記念写真が残っており、1968 年には東京天文台 90 周年誌が発行されている。1978 年には東京天文台 100 周年記念式典が催され、「東京天文台の百年」という冊子が発行された。末元台長の時のことであった。

写真 3 は、看板取り替え時に正門付近にいた人を撮った写真である。古在初代台長、新井初代管理部長、河合初代庶務課長の顔が見える。



写真3 看板架け替えに集まった台長など関係者